

新規事業採択時評価結果（平成31年度新規事業化箇所）

担当課：道路局 国道・技術課
担当課長名：東川 直正

事業の概要

事業名	一般国道39号（北海道横断自動車道網走線） 端野高野道路	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 北海道開発局
起終点	自：北海道北見市端野町字川向 至：北海道網走郡美幌町字高野	延長	14.3 km		
事業概要	端野高野道路は、北海道横断自動車道網走線の一部を構成する道路で、北見市端野町字川向から網走郡美幌町字高野に至る延長約14 kmの自動車専用道路である。（北海道横断自動車道網走線は、黒松内町を起点として札幌市、帯広市、北見市等を経由し、網走市へ至る延長約493 kmの高規格幹線道路である。）				
事業の目的、必要性	当該区間の整備により、冬季災害に強い道路ネットワークを構築し、圏域中心都市と物流・観光拠点間のミッシングリンクを解消し、観光振興や地域産業の活性化に貢献するとともに、高次医療施設への速達性向上により、地域の安心できる暮らしを確保するものである。				
全体事業費	約480億円	計画交通量	約13,400台/日		
事業概要図	<p>凡例 ■ 開通済 ■■■ 事業中 □□□ 調査中 ■■■■ 該当箇所</p> <p>北海道横断自動車道網走線 足寄～北見 延長79.0km 網走市 延長20.0km 事業中 該当箇所 延長14.3km 当箇所工事しない区間 延長31.0km</p>				

関係する地方公共団体等の意見
【北海道知事】
 新規事業採択時評価に係る「一般国道39号（北海道横断自動車道網走線）端野高野道路」を予算化することについて同意します。
 「一般国道39号（北海道横断自動車道網走線）端野高野道路」の整備は、女満別空港へのアクセス強化による広域周遊観光への貢献、地元農水産物の輸送をはじめとする物流の効率化、冬季の安全で確実な交通の確保、北見市の高次医療施設への救急搬送時間の短縮など多くの効果を発揮するものと考えています。
 このため、道としても、沿線の自治体と連携し、アクセス機能の強化などストック効果を最大限に発揮させる取組の推進に努めるとともに、地元調整など事業が円滑に推進されるよう取り組んでまいりますので、是非とも平成31年度の新規事業として予算化していただきますとともに、早期の事業完成に向けて特段のご配慮をお願いいたします。

学識経験者等の第三者委員会の意見
 ・新規事業化については妥当である。

事業採択の前提条件
 ・費用対便益：便益が費用を上回っている。
 ・手続きの完了：計画段階評価手続き完了（H30.12）

事業評価結果

費用便益分析	B/C	1.2 (1.4)	総費用：909億円 (事業費：758億円 維持管理費：150億円)	総便益：1,045億円 (走行時間短縮便益：827億円 走行経費減少便益：172億円 交通事故減少便益：47億円)	基準年：平成30年
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=1.001 (交通量 -10%)	B/C=1.3 (交通量 +10%)	
		事業費変動	B/C=1.1 (事業費 +10%)	B/C=1.3 (事業費 -10%)	
	事業期間変動	B/C=1.1 (事業期間 +20%)	B/C=1.2 (事業期間 -20%)		
事業の影響	自動車や歩行者への影響	評価項目	評価	根拠	
		渋滞対策	—	注目すべき影響はない。	
		事故対策	◎	別線整備により事故危険箇所を回避する。 ・事故危険区間の回避 【現況】3箇所 → 【整備後】0箇所	
	歩行空間	—	注目すべき影響はない。		
	社会全体への影響	住民生活	◎	北見市の高次医療施設への速達性が向上。 ・北見市高次医療施設60分圏 網走市カバー人口 冬季 【現況】13.4千人 (34%) → 【整備後】38.2千人 (98%) 夏季 【現況】26.3千人 (67%) → 【整備後】38.7千人 (99%)	
		地域経済	◎	ミッシングリンクの解消により、拠点都市と空港のアクセスが向上され、所要時間が短縮することで、オホーツク管内の観光周遊性が向上。 ・女満別空港～北見市の所要時間 冬季 【現況】42分 → 【整備後】30分 (12分短縮)	
		災害	◎	地吹雪多発箇所を回避し、安全で信頼性の高い道路ネットワークを確保。 ・地吹雪多発箇所の回避 【現況】6箇所 → 【整備後】0箇所	
環境		—	注目すべき影響はない。		
	地域社会	◎	速度向上や事故率低減など、交通環境の改善・輸送効率向上により地域の産業振興に貢献。		
事業実施環境		○	整備に対する要望が強い		

採択の理由

費用便益比が一体評価で1.2、個別評価で1.4と便益が費用を上回っているとともに、計画段階評価手続きが完了し、事業採択の前提条件が確認できる。
 また、当該区間の整備により農水産物の輸送などに物流効率化、冬季の安全で確実な交通確保、女満別空港へのアクセス強化による広域周遊観光支援、北見市の高次医療施設への速達性向上などが期待でき、当該事業の整備の必要性・効果は高いと判断できる。
 以上より、本事業の新規事業化については妥当である。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。
 ※B/Cの上段は本別JCT～網走を対象とした場合、下段（ ）書きの値は事業化区間を対象にした場合の費用便益分析結果。

新規事業採択時評価結果（平成31年度新規事業化箇所）

事業評価結果（防災機能）

事業の必要性 当該区間の整備により、冬季災害に強い道路ネットワークを構築し、圏域中心都市と空港間のミッシングリンクが解消され、全国の食を支える地域産業や観光振興の活性化するとともに、高次医療施設への速達性向上により地域の安心できる暮らしに寄与するものである。		
評価項目	地域の課題	関連する計画
救助活動等	<ul style="list-style-type: none"> オホーツク圏は吹雪等の発生頻度が道内でも特に高い地域であり、現道の国道39号では冬季災害による通行止めが多発。 冬季は地吹雪等により走行環境が悪化し、旅行速度が低下。 	<ul style="list-style-type: none"> ※新たな北海道総合開発計画(H28.3閣議決定) ・冬期災害に備えた安全な道路交通やライフラインの確保等により被害軽減を図るため、代替性確保のための高規格幹線道路の整備、防雪柵の整備を行う。 ※北見網走都市圏総合都市交通体系調査(H27) ・災害時にも強い道路づくり。
住民生活	<ul style="list-style-type: none"> 北見市はオホーツク圏で唯一第3次医療施設を有するが、カバー面積は全国平均の8倍と広く、網走市の人口3割が60分以内に到達できない。冬季は旅行速度は著しく低下し、網走市の人口約7割が到達できなく、救急搬送における速達性の確保が急務。 	<ul style="list-style-type: none"> ※新たな北海道総合開発計画(H28.3閣議決定) ・基礎圏域中心都市と周辺市街地とのアクセス向上を図り、基礎圏域内外の広域的な交流を支えるため、都市間時間距離を縮める降格幹線道路網等の広域交通ネットワークを整備推進する。 ※北見網走都市圏総合都市交通体系調査(H27) ・救急搬送や通院など超高齢社会に対応した安全な道路づくりを目指す。
地域経済 地域社会	<ul style="list-style-type: none"> 当地域は全国の「食」を支える生産空間であるが、出荷ピークが冬季のため、冬季走行環境の悪化や、通過交通と生活交通の混在による大型車事故率の高さ等、安全安心な輸送ルートの確保に課題。 オホーツク圏は、世界自然遺産知床や流氷などの観光資源が多いが、高規格幹線道路の開通地域で観光客が増加する中、オホーツク圏は伸び悩んでおり、観光拠点間の周遊性向上が課題。 	<ul style="list-style-type: none"> ※新たな北海道総合開発計画(H28.3閣議決定) ・生産地や観光地、消費地、空港・港湾等の交通拠点を結ぶ道路ネットワークの整備、ミッシングリンク解消等を推進する。 ※北見網走都市圏総合都市交通体系調査(H27) ・都市圏内生産地と道内物流拠点を結ぶ高規格道路などによる物流網の強化。 ・都市圏内観光拠点のアクセス向上に寄与する高速交通ネットワークの整備促進
その他		

事業の有効性 ・当該事業の実施により、主要拠点間のリンクの評価に変化はないものの、不通リンクの解消により、ネットワーク全体の防災機能が強化される。 ・また、冬季においても安全で信頼性の高い道路ネットワークが確保されるとともに、拠点都市と空港間のミッシングリンクが解消され、地域産業や観光振興の活性化、地域医療サービスの向上に貢献するなど有効性の高い事業と評価する。									
道路ネットワークの 防災機能	主な区間		改善ペア数	脆弱度 (防災機能ランク)		累積脆弱度 の変化量	改善度		評価
				整備前	整備後		通常時	災害時	
	帯広市	網走市	23 (15)	0.11 〔B〕 (0.08) 〔B〕	0.02 〔B〕 (0.03) 〔B〕	▲2.71 (▲0.42)	0.09 (0.09)	0.16 (0.13)	○

事業の効率性 ・計画段階評価手続き完了（H30.12）									
---------------------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

※道路ネットワークの防災機能の上段の値は本別JCT～網走を対象とした場合、下段（ ）書きの値は事業化区間を対象にした場合の防災機能評価結果。